



# OLIVE ニュース 年末号 2019

## 社会福祉法人 愛篤福祉会

様々なことがあった令和元年、いわき市では、台風19号とそれに続く豪雨による被害の復旧がままならない中で、年越しを迎えられる皆様も多いことと存じます。衷心よりお見舞い申し上げます。

水害による惨状を見たとき、自然災害に対しての人間の無力さを再度実感しました。改めて「避難」の大事さを再認識することが出来ました。工房阿列布はいわき市の福祉避難所になっています。また、KAKA, SFACTORYは大規模災害時の法人独自の避難場所です。障がい者や高齢者、小さなお子さんを抱えた家族には、顔の見える小さな避難所が必要です。愛篤福祉会にはこのような場所があるのだと心にとめておいて頂ければと思います。

一方で明るい話題もありました。ラグビーワールドカップで日本チームの快進撃がありました。チームの目標としていたベスト8を達成出来たことを選手たちは「ワンチーム」。目標に向かってチーム全員が力を合わせ、個人は自身の能力を最大限発揮し、チームは個人の足りない部分を援護出来たから、目標達成出来たのだと語っています。法人も日本チームのように「ワンチーム」の精神で目標達成に向けて一丸となって頑張っ参りたいと思います。来年は、皆様にとって良い年となるよう心からご祈念申し上げます。

## 工房 阿列布・静修苑

今年が始まったと思っていたらもう今年が終わってしまいます。歳を重ねるごとに一年が本当に早く感じます。今年は色々な事が起き、静修苑が従たる事業所になり、平成から令和になり、台風による水害で多くの被害が各地で出たりと、一言で言うところ沢山の事が変化した一年でした。私自身も少しは変化、成長できたのかな？と自問自答しています。来年は自信を持って成長できたとと言えるように精進し、工房阿列布をさらに活気づけられるように頑張りたいです。今年もお世話になりました。

管理者 佐藤 央庸

## 相談支援事業所 おりーぶ

相談支援に関わり、管理者兼相談員として勤める最後の12月となりました。未だに利用者の皆様の引き受け先も見つからないままの年越しになってしまふ事を深くお詫びいたします。以前面談ではお伝えしていましたが、相談支援事業は終了にはなりません、私個人が阿列布を辞めたりするわけではありません。新年以降も頑張りますので宜しくお願いします。大きな災害もあり大変な一年でしたが、失った物だけを見るのではなく、得た経験を次に活かせるよう来年も過ごして行きましょう。

管理者 坂井 達雄

## KAKA, SFACTORY

令和元年が暮れようとしています。北海道に事業所を開所して、4度目の冬を迎え、カカズは例年になく少ない雪に覆われています。

人は、環境に慣れていくものなのではないでしょうか、川端は、真冬でも利用者さんが伸び伸びと運動できる環境に身を置いて元気です。外は深々と降る雪に、緩やかな時間のリズムを感じます。

1年を振り返り『足るを知る』という言葉が頭の隅をよぎります。色々な意味がある中で私が理解しているのは、「不満を感じた時に、不満を口に出す前にこれまでの日々を振り返り、幸せだと思えた瞬間に感謝し、そして、何かをやりたいと思ったら、失敗を恐れずに取り組んでみるべき」ということです。令和5年を目標に、グループホーム建設を計画しております。様々な難題がある中での計画です。遅々として進まないことに、この言葉を思います。新しい年に少しでも前に進むことが出来る様、精一杯努めたいと思います

管理者 太田 さとみ